# 時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

時事新報定價

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊セス其代價選定料廣告料へ左ノ如シ

一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金五圓○時事新報社ノ選定ヲ得タル廣告ハ一行二付十二錢ノ選定ヲ得サル廣告ハ一行二付十錢ノ選定ヲ得タル廣告ハ一行五錢廣告世四字詰一日限　二日以上　六日迄　七日以上　十錢五厘

時事新報廣告料前金

第二十七百七十七號

明治廿三年九月十四日（戊子）

曆庚寅八月朔日

日曜日

月出午前四時四十二分　月入午後四時五十五分

日出午前六時零十分　日入午後五時十二分

滿潮午前五時十分　干潮午後五時五十二分

（西暦一千八百九十年）

時事新報

## 時事新報

○川口陸軍監督の談話　陸軍一等監督川口大佐は昨年十月歐洲諸國陸軍會計法實地研究の爲め彼地に派遣せられ先づ佛國より獨逸を經て漠太利に赴き到る處將校と交際して親しく其會計法に就き綿密なる取調を遂げ先頃歸朝したるが今同氏の直話なりと云へる聞くに曰く僅に參觀せんに佛國は澤山僅に兩三日にて實に案外なりし同然なりしゆゑ別に耳新しく聞込みもなかりしが獨て目指す處の獨逸人と目下陸軍の整頓を以て世界に鳴りし獨逸の程度に比較して其會計法の如きも最も嚴に整頓し居るに何ぞ計らん實に此點には意想外の事共多かりし氏の談話中は廣く會計官と交際中に目擊しし人に就て種々其學識や實地又制度の要目などを聞くも更に耳新しき說なく殆ど一樣にして駁雜なる程度に過ぎざるもの多く又作戰演習を實施する折などは略分其任に堪へずして病氣引籠の者さへある次第にてあか〳〵側目より見ると全く反對の事情等から予共より滿國に到り何は陸軍會計法を調査するに此國には終始極めて鄭重なる扱を爲し餘程共取調上に就て便利を與へたるが唯意外なりしは會計官其人が嬉しがる程の獨逸と違ひ學識を備へたるみと是迄の氏の問に答へて一々明瞭を與へ上に也種々學理上の說をも述べたれども是別に珍說もなく或は日本現在の會計法の方却て之に勝れたるのみならず諸般の會計事務も寧ろ簡單せりと思はるる程なり氏が今度の洋行に就て別段に探くして無益其職務上に關しては何事を何人に問合すも彼れは斯々是れは云ふなりと一々即答も出來なりなと想像したる